

鯉淵勢戦争日記

元治元年甲子七月廿六日

同勢之内

編注

- 一 読み下し文とし、旧漢字で常用漢字にあるものは直した。
- 二 数字は現用の数字に直した。
- 三 判読した箇所は二重傍線で示した。読めない箇所は、字数の判る場合は□□で、字数不明の場合は「 」で示した。
- 四 異体字・特殊字は現用の字体に直した。

元治元年甲子七月与離

鯉淵勢戦争日記

同勢之内 始末

中妻郷打合

七月廿八日浮浪田中源蔵組二百余人水戸領野口館を引込加倉井村より鯉淵村へ掛り府中宿へ通行の先触来り候二付早馬を以組合村々え相触候処早遠相集の人数五百人余内原村え繰出し候処敵杉崎村入口にて砲発致シ暫時打合候処木筒を打捨夕七時半時頃逃去申候同夜賊徒行先相尋候処暮六ツ半時頃六戸え繰込御徳屋差図にて同所本町え止宿儘二見届ケ候二付組合村々談判の上

明日未明一同出勢仕賊徒共可討取旨契約仕候

土師村騒動

同日外味方惣勢千三百人余鯉字ノ相印小筒竹鎗を携土師村え繰出し相待候処四ツ半比浮浪共六戸を繰出し目沼川を渡り土師村鎮守え陣を構候此時味方一同諒波ヲ揚候二付田中勢同諒波を合せ陣鉦陣太鼓ヲ打鳴し大砲打出候事夥し味方よりも砲発仕互ニ暫時打合候処田中勢二ヶ所へ裏切いたし候二付味方馳向打戦事数刻

中妻郷打合

七月廿八日浮浪田中源蔵組二百余人水戸領野口館を引込加倉井村より鯉淵村へ掛り府中宿へ通行の先触来り候二付早馬を以組合村々え相触候処早遠相集の人数五百人余内原村え繰出し候処敵杉崎村入口にて砲発致シ暫時打合候処木筒を打捨夕七時半時頃逃去申候同夜賊徒行先相尋候処暮六ツ半時頃六戸え繰込御徳屋差図にて同所本町え止宿儘二見届ケ候二付組合村々談判の上

明日未明一同出勢仕賊徒共可討取旨契約仕候

土師村騒動

同日 廿九日味方惣勢千三百人余鯉字ノ相印小筒竹鎗を携土師村え繰出し相待候処四ツ半比浮浪共六戸を繰出し目沼川を渡り土師村鎮守え陣を構候此時味方一同諒波ヲ揚候二付田中勢同諒波を合せ陣鉦陣太鼓ヲ打鳴し大砲打出候事夥し味方よりも砲発仕互ニ暫時打合候処田中勢二ヶ所へ裏切いたし候二付味方馳向打戦事数刻

無我無能の民兵大勢の一致一心不亂ニ突立候処敵方進
 崇暫時引退キトント口火矢を民家ニ射當候よと見る間ニ
 数ヶ所へ燃揚り候味方少もひるまず鉄砲打當／＼相進み
 田中源藏家老小泉豊西山何某等其外十四五人
 打留候得共何分然火難湛死該首共敵ニ被奪候義
 残念至極の事共ニ候敵七ツ時府中の方へ逃去り候ニ付味
 方も村々え引取申候

味方即死 鯉淵村 兵左衛門

日 柏井村 源右衛門
 日 仁古田村 龜吉
 日 野曾村 文次
 日 深手負 住吉村 權左衛門
 日 薄手負 同村 常吉

生焔硝武器類拾置申候

無我無能の民兵大勢の一致一心不亂ニ突立候処敵方進
 崇暫時引退キトント口火矢を民家ニ射當候よと見る間ニ
 数ヶ所へ燃揚り候味方少もひるまず鉄砲打當／＼相進み
 田中源藏家老小泉豊西山何某等其外十四五人
 打留候得共何分然火難湛死該首共敵ニ被奪候義
 残念至極の事共ニ候敵七ツ時府中の方へ逃去り候ニ付味
 方も村々え引取申候

味方即死 鯉淵村 兵左衛門

同 柏井村 源右衛門
 同 仁古田村 龜吉
 同 野曾村 文次
 深手負 住吉村 權左衛門
 薄手負 同村 常吉

生焔硝武器類拾置申候

八月十四日浮浪勢百廿人余小鶴村如意輪寺へ
 繰込宿陣水戸上町え攻入ントノ模様有之候二付組合村々より
 注進有之候

小鶴台戦等

一 同十五日味方惣勢千人余小鶴原え繰出し諒波の
 聲を揚砲発仕候処敵方同小鶴台え陣取砲発互二
 打合事一時刻敵方入りあつた事浮浪勢目沼川を
 渡り橋を打破奥野谷村へ致放火八ツ半時小堤村え
 逃去申候其より小堤村迄追討分捕多分御評定所え
 差上申候

同 賊 大久保新次郎
 小田 彦太郎

賊

大久保新次郎
 小田 彦太郎

常盤表出陣

一 同廿二日御役所様御達二付早馬を以組合村え相触
 候処早速相集の人数七百余人村方人数百八十人余り
 都合八百八十人余繰出し常盤川岸え相詰候処二ノ先

常盤表出陣

一 同廿二日御役所様御達二付早馬を以組合村え相触
 候処早速相集の人数七百余人村方人数百八十人余り
 都合八百八十人余繰出し常盤川岸え相詰候処二ノ先

同 賊 大久保新次郎
 小田 彦太郎

軍將より御下知二よつて左の四ヶ所相回メ申候

金町口 馬口旁丁口 环渡村の舟場 常盤川岸

一 同廿三日御評定所え小筒百挺御下ヶ幸願上候処御目附方
小泉左重郎様より百目大砲二挺小砲十挺御下ヶ二相成候

六戸表探整

一 同廿四日六戸御陣屋二賊徒潛忍居風聞有之候間為
探整組合村々人数七百人余繰出し相改候処田中源蔵
落物有之候二付引上ヶ且焰硝蔵二封印大砲五百目
一挺

百目大砲引上ヶ組合村々一引上ヶ

小堤台戦争

一 同廿七日浮浪藤田小四郎三木源八高橋上総之輔林
五郎三郎鈴木秀太郎等ヲ初メ五百人余小堤台え繰
込水戸上町え攻入らんとの様子組合村より注進二付村方人
数二百人余組合人数千人余都合千二百人余繰出し
百目大砲四挺小筒二百挺余筒先を前打出候処敵
方ニても砲発暫時打合相戦候処敵方即死手負

軍將より御下知二よつて左の四ヶ所相回メ申候

金町口 馬口旁丁口 环渡村の舟場 常盤川岸

一 同廿三日御評定所え小筒百挺御下ヶ幸願上候処御目附方
小泉左重郎様より百目大砲二挺小砲十挺御下ヶ二相成候

六戸表探整

一 同廿四日六戸御陣屋二賊徒潛忍居風聞有之候間為
探整組合村々人数七百人余繰出し相改候処田中源蔵
落物有之候二付引上ヶ且焰硝蔵二封印大砲五百目
一挺

百目二挺引上ヶ組合村々一引取申候

小堤台戦争

一 同廿七日浮浪藤田小四郎三木源八高橋上総之輔林
五郎三郎鈴木秀太郎等ヲ初メ五百人余小堤台え繰
込水戸上町え攻入らんとの様子組合村より注進二付村方人
数二百人余組合人数千人余都合千二百人余繰出し
百目大砲四挺小筒二百挺余筒先を前打出候処敵
方ニても砲発暫時打合相戦候処敵方即死手負

多人數有之候由秋場の方へ逃去申候味方秋場村迄追討
潮来館魁印の木大砲武器類分揃仕引取申候

味方即死 川又村 狩三郎

同 蕎麦原村 善左衛門

深手負 同村 弥兵衛

同 安居村 嘉市

片倉探整

一 同廿八日賊徒共片倉宿二屯致居候越組合村より注進二付
村方人数二百人余組合村々人数千人余都合千二百人余繰
出し探整致候処賊徒共逃去候哉一人も見当不申候夕七ツ時
帰陣仕候

中郷永福寺探整

一 同晦日組合村より注進二付村方人数二百人余組合村々人数
千人余繰出し右永福寺探整致候処賊逃去候哉一人も
相見不申候二付小川村え立越宿陣仕候

中郷永福寺探整

一 同廿八日賊徒共片倉宿二屯致居候越組合村より注進二付
村方人数二百人余組合村々人数千人余都合千二百人余繰
出し探整致候処賊徒共逃去候哉一人も見当不申候夕七ツ時
帰陣仕候

磯浜出勢

一 九月六日磯浜近辺賊徒立廻り難波の趣村々より注進
二 付村方人数百五十人余組合村々人数八百人余惣勢
九百人余繰出し海老沢村え宿陣同七日松川御陣屋
探整仕同日夏海村宿陣

磯浜戦等

一 同八日未明惣勢繰出し大貢浜堀川を渡り砲發
仕候処浮浪方儀陣屋台場より砲發致暫時相戦
候処雨頻二降出し火繩保チ兼退陣仕候

賊 生捕 二人

同 鉄砲にて打留二人

味方即死

鯉淵村 久蔵

同

田沢村 彦左衛門

薄手負

鯉淵村 忠三郎

同日夏海滞陣の処川根中妻辺え賊徒押来候旨
急キ注進有之候二付惣勢引取申候

同日夏海滞陣の処川根中妻辺え賊徒押来候旨
急キ注進有之候二付惣勢引取申候

村々山狩

一日廿四夜鹿島館浮浪の由二十人余近辺立
廻り候二付村々山狩致打留候

賊

小田熊太郎

長谷川新十郎

同

三人

外二打留

三人

生捕

十二人

味方手負

鴻巣村 伊兵衛

同

同 村 伝左衛門

同

同 六戸 彦 輔

同日九日首五ツ生捕十二人御評定所え奉差出候

同日十月十一日中妻郷山狩仕候

塩ヶ崎出陣

同日十二日諸生方より御達二付組合村々え相触村方的人数

二百人組合村々人数一同繰出し大場村宿陣

島新田打合

- 一 同十三日惣勢島新田へ繰出し打合いたし候処敵大貫台山え逃去申候間惣勢引取大場村宿陣
- 一 同十四日 御公儀御役人様水戸表より那珂川向へ御出陣二相成候二付御郡方御役所より鯉淵勢え磯街道固メ被仰付依之組合出勢え相触申候
- 一 同十五日鯉淵惣勢千人余塩ヶ崎ヲ繰出し海老沢村宿陣

島新田打合

- 一 同十三日惣勢島新田へ繰出し打合いたし候処敵大貫台山え逃去申候間惣勢引取大場村宿陣
- 一 同十四日 御公儀御役人様水戸表より那珂川向へ御出陣二相成候二付御郡方御役所より鯉淵勢え磯街道固メ被仰付依之組合出勢え相触申候
- 一 同十五日鯉淵惣勢千人余塩ヶ崎ヲ繰出し海老沢村宿陣

大貫村堀川の合戦

- 一 同十六日惣勢松川台え野陣同夜九ツ時夏海村へ繰込本道浜手三ヶ所固メ仕候
- 一 同十八日未明鯉淵勢千二百余人繰出し二夕手二分一手ハ諸生神代金四郎様え御加勢にて大貫福荷山え出陣
- 一手ハ松崎豊之助様え御加勢にて鯉波ヲ合
- 両勢大貫村中程二押寄大砲四挺小筒二百挺にて打合
- 堀川際迄押寄打合事数刻敵大將分のもの一人

大貫村堀川の合戦

- 一 同十六日惣勢松川台え野陣同夜九ツ時夏海村へ繰込本道浜手三ヶ所固メ仕候
- 一 同十八日未明鯉淵勢千二百余人繰出し二夕手二分一手ハ諸生神代金四郎様え御加勢にて大貫福荷山え出陣
- 一手ハ松崎豊之助様え御加勢にて鯉波ヲ合
- 両勢大貫村中程二押寄大砲四挺小筒二百挺にて打合
- 堀川際迄押寄打合事数刻敵大將分のもの一人

其外多人數打留申候

味方即死

松崎豊之輔様

手負

駒渡村 五左衛門

同

安居村 春吉

一 同十九日松平周防守様本多修理様夏海之御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄

戦争仕候

味方即死

鯉洲村 栄助

深手負

同日右疵ニテ死

一 同日堀田鴻之丞様夏海村之御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄砲發戦争仕候

一 同日下野御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄砲發戦争仕候

一 同日松平周防守様本多修理様夏海之御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄砲發戦争仕候

其外多人數打留申候

味方即死

松崎豊之輔様

手負

駒渡村 五左衛門

同

安居村 春吉

一 同十九日松平周防守様本多修理様夏海之御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄

戦争仕候

味方即死

鯉洲村 栄助

深手負

同日右疵ニテ死

一 同日堀田鴻之丞様夏海村之御縁込ニ相成鯉洲勢之地利案内被仰付堀川迄押寄砲發戦争仕候

一 同廿一日鯉洲勢兵糧手達ニ付千人余引取申候

一 残人数二百人余松平周防守様之御加勢仕
一 神山村固メ并大貫村相堅メ野陣然ル処同夜九ツ時頃浪打際より忍来り放火致候ニ付松平周防守様御人数鯉洲勢一同防相戦申候

味方即死

友部村 龜右衛門

日村 重兵衛

日村 重藏

同村 茂右衛門

同日廿二日未明御官軍御人数松平周防守備戸田五助様堀田鴻之丞様諸家様并鯉淵勢堀川際迄押寄ボンベン敲敷打掛候処忽火数ヶ所へ燃上り折節風烈吹出し大火二相成候賊徒共烟り二咽ビ敗走ス此時

鯉淵勢先陣仕敵方台場ニて大砲一挺分捕いたし戸田様一手え差上申候統て賊徒共祝町え逃去候ヲ御官軍の勢一同攻入放火致大砲小筒打懸ケ攻入候所賊徒祝町より舟にて湊え逃落依て味方的人数一同祝町磯浜へ野陣

塩ヶ崎出陣

九月廿五日御郡御役所より御違有之候二付組合村々へ以廻文相触村方人数二百人余并二組合村々一同繰出し

味方即死

友部村 龜右衛門

同村 重兵衛

同村 重藏

同村 茂右衛門

同日廿二日未明御官軍御人数松平周防守備戸田五助様

堀田鴻之丞様諸家様并鯉淵勢堀川際迄押寄

ボンベン敲敷打掛候処忽火数ヶ所へ燃上り折節

風烈吹出し大火二相成候賊徒共烟り二咽ビ敗走ス此時

鯉淵勢先陣仕敵方台場ニて大砲一挺分捕いたし

戸田様一手え差上申候統て賊徒共祝町え逃去候ヲ御

官軍の勢一同攻入放火致大砲小筒打懸ケ攻入候所

賊徒祝町より舟にて湊え逃落依て味方的人数一同

祝町磯浜へ野陣

塩ヶ崎出陣

九月廿五日御郡御役所より御違有之候二付組合村々へ以廻文相触村方人数二百人余并二組合村々一同繰出し

同御郡方御役所より兵糧頂戴仕候同日水戸上町
神応寺宿陣

一月廿六日塩ヶ崎長福寺御宿陣平岡四郎兵衛様
御附二相成兵糧頂戴仕候同廿七日同日大串村宿陣

中根繰込三反田村宿陣

一月廿八日田沼玄蕃頭様御達の趣中根御宿陣北条
新太郎様御附被仰付候平岡四郎兵衛様より御書翰持
参二て同日暮六ツ時罷出候処中根二宿無之二付三反田

原坪一同宿陣二相成申候

同廿九日市川様え御機嫌伺二罷出候其節北条新太郎
様市川様御両将様御附罷仰付候市川様御陣所へ
昼十人夜廿人固メ被仰付候

十月朔日北条新太郎様より鯉淵勢え赤襦袢拜領仕候

同日市川三左衛門様御人数御繰出シ鯉淵勢御供仕候

同夜北条様より御遣ヲ受部田野原物見被仰付

同御郡方御役所より兵糧頂戴仕候同日水戸上町
神応寺宿陣

同廿六日塩ヶ崎長福寺御宿陣平岡四郎兵衛様
御附二相成兵糧頂戴仕候同廿七日同日大串村宿陣

中根繰込三反田村宿陣

同廿八日田沼玄蕃頭様御達の趣中根御宿陣北条
新太郎様御附被仰付候平岡四郎兵衛様より御書翰持
参二て同日暮六ツ時罷出候処中根二宿無之二付三反田

村

原坪一同宿陣二相成申候

同廿九日市川様え御機嫌伺二罷出候其節北条新太郎
様市川様御両将様御附罷仰付候市川様御陣所へ
昼十人夜廿人固メ被仰付候

十月朔日北条新太郎様より鯉淵勢え赤襦袢拜領仕候

同日市川三左衛門様御人数御繰出シ鯉淵勢御供仕候

同夜北条様より御遣ヲ受部田野原物見被仰付

罷出候

一 同夜御達二付柳沢御宿陣多賀外記様え鯉淵勢
 三百八十人御附二相成萌賞禰半拝領仕候
 一 同三日夕七ツ時頃六軒家へ繰出し砲発致帰陣
 中納言様より 酒三樽 生鮭五尺 芋二俵
 市川様一手え被下置候右の通り御達ニて鯉淵勢へ被
 下置難有頂戴仕候
 一 同峰山地利見として罷出水車より見張の敵一人
 打留申候

一 同四日夕市川様御本陣え鯉淵村勢組合村勢一同
 相詰同夜九ツ時頃友部八太郎様より御達を請銘々松明
 持参人数五百人余新堀向え繰出し悉砲発致帰陣
 一 同日市川様御帰陣の節鯉淵勢え 御公刃より日の丸
 の印の御旗御下ケニ相成候
 一 十月六日より七日迄対陣
 一 同八日中根表三ヶ所同メ市川様御陣所より被仰付候
 一 同十日市川様御繰出シニ付鯉淵勢先陣被仰付候畑中

一 同夜御達二付柳沢御宿陣多賀外記様え鯉淵勢
 三百八十人御附二相成萌賞禰半拝領仕候
 一 同三日夕七ツ時頃六軒家へ繰出し砲発致帰陣
 中納言様より 酒三樽 生鮭五尺 芋二俵
 市川様一手え被下置候右の通り御達ニて鯉淵勢へ被
 下置難有頂戴仕候
 一 同峰山地利見として罷出水車より見張の敵一人
 打留申候

稲荷山え押寄大合戦に勝利打合の玉葉打切殊二
味方も手負即死等も出来無廻帰陣

味方即死 小岩戸村 柴輔

同 蕎麦原村 平兵衛

同 手負 鯉淵村 清助

同 友部村 治右衛門

一日鮭淵勢東中根入口三ヶ所固メ被仰付候

一日十八日市川様御人数御一同鯉淵勢人数二百人余同新田
人数二十人余平須村穢多頭慎四郎支配下人数五十人余
鯉淵惣勢三百人余前浜より稲荷山際迄繰出シ砲戦
暫時八ツ半時頃三反田へ帰陣

一日十九日より廿二日迄対陣

一日廿三日賊徒湊表ヲ退去此時友部八太郎様より御遣
二付馬渡村より二夕手ニ相成り村松并高野足崎辺迄
追討罷出候所敵遠え逃去候故帰陣致候

一日廿三日賊徒湊表ヲ退去此時友部八太郎様より御遣
二付馬渡村より二夕手ニ相成り村松并高野足崎辺迄
追討罷出候所敵遠え逃去候故帰陣致候

稲荷山え押寄大合戦仕数刻打合候故玉葉打切殊二
味方も手負即死等も出来無廻帰陣

味方即死 小岩戸村 柴輔

同 蕎麦原村 平兵衛

同 手負 鯉淵村 清助

同 友部村 治右衛門

一日十八日市川様御人数御一同鯉淵勢人数二百人余同新田
人数二十人余平須村穢多頭慎四郎支配下人数五十人余
鯉淵惣勢三百人余前浜より稲荷山際迄繰出シ砲戦
暫時八ツ半時頃三反田へ帰陣

一日十九日より廿二日迄対陣

一日廿三日賊徒湊表ヲ退去此時友部八太郎様より御遣
二付馬渡村より二夕手ニ相成り村松并高野足崎辺迄
追討罷出候所敵遠え逃去候故帰陣致候

一日廿三日賊徒湊表ヲ退去此時友部八太郎様より御遣
二付馬渡村より二夕手ニ相成り村松并高野足崎辺迄
追討罷出候所敵遠え逃去候故帰陣致候

同廿四日市川様御本陣へ罷出追討の義御伺候処鯉淵
 勢の義は御城下南表見張固メ嚴重ニ可致言被仰
 渡一同引取申候

十月二日御目代田沼玄蕃頭様より惣勢え御遣有之候
 趣ニて水戸郡方御役所より鯉淵半勢人数三百五十余人
 柳沢御固別手御御支配多賀外記様為地利案内御
 加勢御附被仰付候

同日多賀外記様御固柳沢村御本陣え一同人数
 相揃大砲三挺持参仕相詰候処早速御目遣被仰付
 以来粉骨可致旨被仰聞明貴禰半一同拜領
 仕難有奉存候

一 同廿四日市川様御本陣へ罷出追討の義御伺候処鯉淵
 勢の義は御城下南表見張固メ嚴重ニ可致言被仰
 渡一同引取申候

一 十月二日御目代田沼玄蕃頭様より惣勢え御遣有之候
 趣ニて水戸郡方御役所より鯉淵半勢人数三百五十余人
 柳沢御固別手御御支配多賀外記様為地利案内御
 加勢御附被仰付候

一 同日多賀外記様御固柳沢村御本陣え一同人数
 相揃大砲三挺持参仕相詰候処早速御目遣被仰付
 以来粉骨可致旨被仰聞明貴禰半一同拜領

仕難有奉存候

一月廿四日御酒一樽被下置早速御目這にて頂戴
 の致旨御直ニ被仰付候得共一同平伏仕暫時遠慮仕
 居候処多賀様広庭え御出被遊戦場の儀は不及
 遠慮我等より相初メ可申と樽え御口被当被召上一同這メ
 す、めと被仰付候ニ付我々共一同樽の口より頂戴仕一同
 酔狂仕乱ル大将仕有流有杯の如きの如き様
 被仰候ニは鯉淵勢ヲ遣ふ大将社有間敷と御笑
 被遊候ニ付忽大勢ノ一致挑身命ヲの儀ニ廻り候

一 同日多賀外記様御差図ニて鯉淵勢の台場柳沢
 焼跡え築立申候

同日水車近辺地利并諸家様御回メ場案内
 可致旨被仰付指引の者二人罷出御案内申上候
 同日水車より峰の山見張の賊一人打留申候
 同日暮六ツ半時翌五日峰山出陣の儀御遣有之候
 且又御酒一樽気様相補不呑過候様杯頂戴可
 致一

一 同日御酒一樽一同え被下置早速御目這にて頂戴
 可致旨御直ニ被仰付候得共一同平伏仕暫時遠慮仕
 居候処多賀様広庭え御出被遊戦場の儀は不及
 遠慮我等より相初メ可申と樽え御口被当被召上一同這メ
 す、めと被仰付候ニ付我々共一同樽の口より頂戴仕一同
 酔狂仕乱ル大将ニ仕ル事難有杯申候処多賀様
 被仰候ニは鯉淵勢ヲ遣ふ大将社有間敷と御笑
 被遊候ニ付忽大勢ノ一致挑身命ヲの儀ニ廻り候

一 同日多賀外記様御差図ニて鯉淵勢の台場柳沢
 焼跡え築立申候

同日水車近辺地利并諸家様御回メ場案内
 可致旨被仰付指引の者二人罷出御案内申上候
 同日水車より峰の山見張の賊一人打留申候
 同日暮六ツ半時翌五日峰山出陣の儀御遣有之候
 且又御酒一樽気様相補不呑過候様杯頂戴可
 致一

同夜九ツ時御出陣被仰出候処醉狂の者多分有之
用意差支申候此時多賀様布密(蜜)柑一駄被下置
一同頂戴仕候二付忽酔醒支度相懸申候

峰山合戦

十月五日明七ツ時柳沢村畑中にて御勢揃多賀外記
様より魁印御旗三流鯉淵勢え御渡二相成先陣
案内可致旨被仰付力水頂戴仕大砲三挺小向五拾挺
残兵竹鎗御下知二随イ柳沢下台場より水車焼跡へ

峰山合戦

同夜九ツ時御出陣被仰出候処醉狂の者多分有之
用意差支申候此時多賀様布密(蜜)柑一駄被下置
一同頂戴仕候二付忽酔醒支度相懸申候

一 十月五日明七ツ時柳沢村畑中にて御勢揃多賀外記
様より魁印御旗三流鯉淵勢え御渡二相成先陣
案内可致旨被仰付力水頂戴仕大砲三挺小向五拾挺
残兵竹鎗御下知二随イ柳沢下台場より水車焼跡へ

三 陣取仕鯉淵の者物見仕候処敵方二は峰山
入口え台場を築キ大砲数挺相構且藪蔭え小筒数
十挺構置堅メ敵重二相見申候此時味方水車より大砲
小砲打出候処敵方よりも砲発打合事数刻此時
軍將より急キ峰山可乗取との御下知あつて惣勢
鉄砲打掛一相進候処水車向二泥川有之渡業
候処軍將より兼て鯉淵勢え申附被置候戸板
旗幟泥川え岸渡し此時鯉淵勢二相成

数人川へ飛入是ヲかつぐ依て此橋を推渡る敵方
 是を見て峰山焚草館山三ヶ所より大砲小筒打出
 事雨の降るか如し暫時打合候処味方歩兵一人
 被打倒依之味方色めき進兼候処軍將多賀様
 御刀を抜キ被遊大音にて大名二なるも旗本二なるも
 爰成べし進メ／＼との御下知二被励一同打掛／＼打進
 峰山を乗取放火致并敵の台場を打崩し
 同所出口へ味方台場ヲ築キ此処え陣を構候処続て

諸家様追々御繰込ニ相成同様陣取候処敵方
 焚草立山其外所々の台場より大砲小筒打出事
 夥し数刻打合候処軍將多賀外記様より焚草
 館山乗取との依御下知二鯉淵勢先陣にて攻寄
 ンと致候処七ツ時より別て雨烈敷火繩保テ兼候二付
 七ツ時惣勢退陣仕候
 峰山にて 分捕 大砲 四挺

七ツ時惣勢退陣仕候
 分捕 大砲 四挺

味方即死

多賀外記様御組内

井上外次郎様

御家来

深手負 稲垣徳五郎様

同 鯉淵勢の内怪我

深手負 内原村 銀次郎

後日疵にて死

深手負

築地村 伊左衛門

薄手負

内原村 儀三郎

同 同村 清輔

同 赤尾関村 宇兵衛

同 同村 善蔵

右の者共即死手負仕候

右の者共即死手負仕候

」

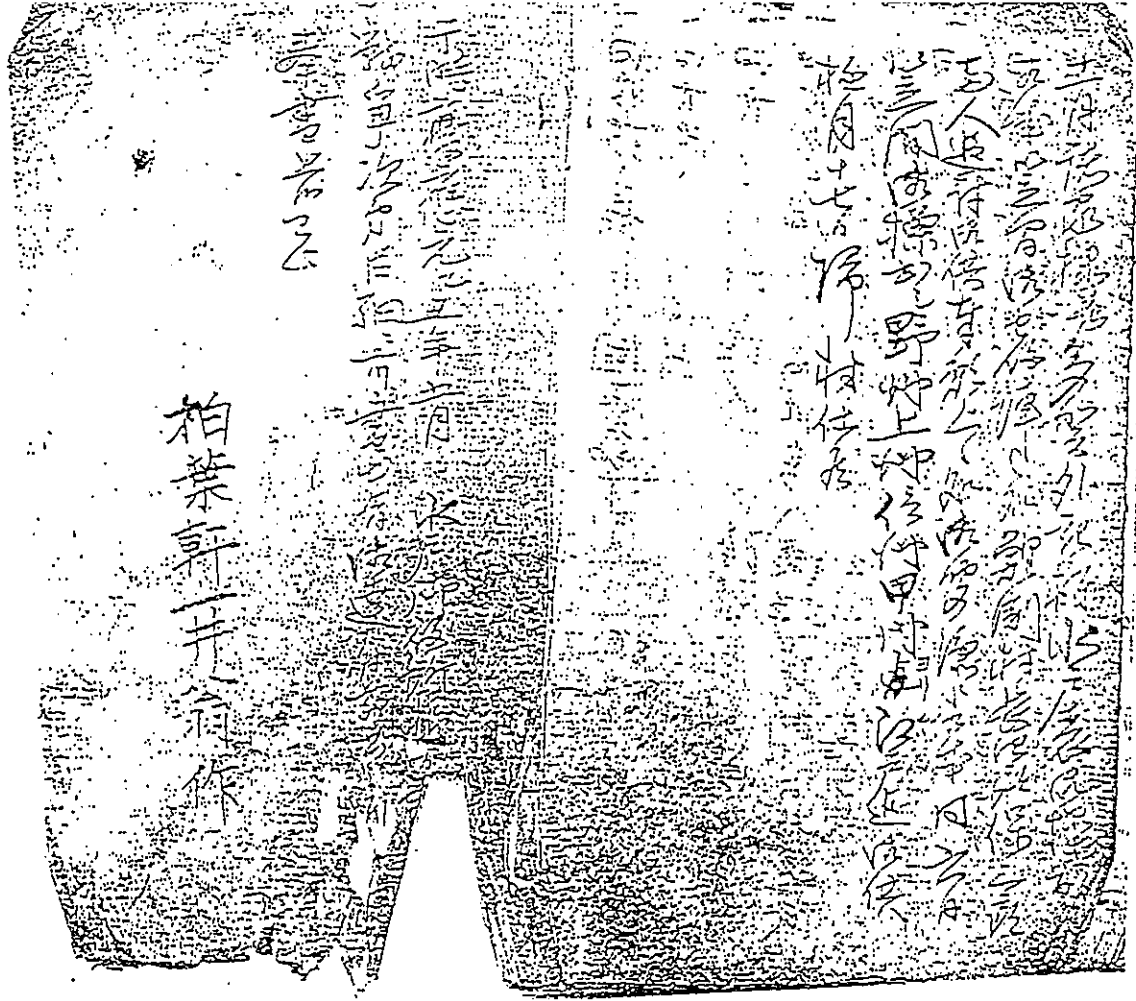
一日早天二分掃の品々相改メ多賀外記様御信
 障え指上申候
 一日御陣場見廻り被仰付昼夜相勤罷在り
 同八日 同断
 一日九日柳沢より川又村え御陣替二相成候一同御供仕候
 同日岩舟山下渡舟場固メより大砲にて賊一人
 打留メ申候
 同十一日御本陣見廻り渡舟場固メ相勤申候
 同十二日より十四日迄同断
 同十五日磯浜祝町岩船山近辺地利案内被
 御行御供仕候
 同十六日御本陣見廻り渡舟場同
 同十七日岩舟山下渡舟場固メ同夜多賀様御断
 繁沢又三郎様より御遣二付竹階子拵申候
 同十八日より廿一日迄御本陣見廻り岩舟山下渡舟場固メ
 同廿二日多賀様より御遣二付小泉渡舟場にて夜組仕候

- 一日早天二分掃の品々相改メ多賀外記様御信
- 障え指上申候
- 一日御陣場見廻り被仰付昼夜相勤罷在り
- 同八日 同断
- 一日九日柳沢より川又村え御陣替二相成候一同御供仕候
- 同日岩舟山下渡舟場固メより大砲にて賊一人
打留メ申候
- 同十一日御本陣見廻り渡舟場固メ相勤申候
- 同十二日より十四日迄同断
- 同十五日磯浜祝町岩船山近辺地利案内被
御行御供仕候
- 同十六日御本陣見廻り渡舟場同
- 同十七日岩舟山下渡舟場固メ同夜多賀様御断
- 繁沢又三郎様より御遣二付竹階子拵申候
- 同十八日より廿一日迄御本陣見廻り岩舟山下渡舟場固メ
- 同廿二日多賀様より御遣二付小泉渡舟場にて夜組仕候

同廿六日長福寺同相勸申候
 同廿七日 右同断
 同廿八日川又村より塩ヶ崎村へ御陣替ニ相成御供仕候
 同廿九日降参人の内三十余人御評定所へ可指送旨
 多賀外記様え被仰付一同警固仕御供仕候
 同夜多賀外記様弘道館え御縁込ニ相成一同御供仕候
 同晦日期多賀外記様より一同え御酒被下置難有
 頂戴仕御暇被仰付一同帰村仕候

同廿六日長福寺同相勸申候
 同廿七日 右同断
 同廿八日川又村より塩ヶ崎村へ御陣替ニ相成御供仕候
 同廿九日降参人の内三十余人御評定所へ可指送旨
 多賀外記様え被仰付一同警固仕御供仕候
 同夜多賀外記様弘道館え御縁込ニ相成一同御供仕候
 同晦日期多賀外記様より一同え御酒被下置難有
 頂戴仕御暇被仰付一同帰村仕候

同夜四ツ時御遣二付兵糧持参二て一同御本陣え相詰
 候処船十五艘御渡ニ相成候
 同廿三日明七ツ時出船漢小川え押揚り先陣仕焚
 車燻ヲ乘取大砲玉薬等分捕仕部田野
 馬渡村迄追討仕同日降参人見張被仰付候
 同廿四日渡舟場固被仰付候
 同廿五日降参人塩ヶ崎長福寺へ御引立二付
 多賀外記様え小泉村渡舟場固メ被仰付一同御供
 仕候



柏葉軒一井翁作

三書

于時慶應元乙丑年五月 水戸御役所様より一
 殿寺次第第三細ニ可書出旨御達ニ付前書の通一
 奉書上候 以上

十一月諸家様并多買外記様水戸表御繰出
 相成笠間御宿陣の処廻御村長四郎保三郎
 河人追討御供奉願上候御間濟ニ相成同六日
 笠間御繰出シ野州上州信州ヨリ江戸迄御供
 極月十七日帰村仕候

十一月諸家様并多買外記様水戸表御繰出
 相成笠間御宿陣の処廻御村長四郎保三郎
 河人追討御供奉願上候御間濟ニ相成同六日
 笠間御繰出シ野州上州信州ヨリ江戸迄御供
 極月十七日帰村仕候

長四郎は分家三郎
 小林村御宿陣
 三郎 (保)

柏葉軒一井翁作